

# 令和4年度 園評価

大垣市立安井幼稚園

願う姿	重点目標	評価項目	自己評価・・・○成果 ●課題 (4:できている 3:まあまあできている 2:あまりできていない 1:できていない)	平均値	園関係者評価(園評議員7名)	次年度への改善策	
考える子	1	友達と一緒に遊んだり、活動したりすることを楽しむ。	園児は園生活を楽しいと言っている。	○1学期は保育者を求めることが多かったが、後期は自分で好きな遊びを見つけることができ、友達を誘って遊びを楽しむことができるようになった。1人遊びを好んで遊んでいた子も、友達に興味をもってかかわる姿が見られた。集団生活に慣れ友達と遊ぶことを楽しみ、幼稚園が楽しくなってきた。また幼稚園が楽しいと思えるまでに時間のかかる子もいたが、焦らず接したことで今では笑顔で登園できるようになり保育者もうれしさを感している。 ●友達に慣れてきたことにより、ふざけた態度や強い口調で対応することが出てきて、嫌な思いをする子もいる。その都度、子どもと一緒に相手の気持ちを考え、どのように声をかけられたいか実践できるようにしている。 ●家庭の生活リズムが崩れていて、登園時間が遅くなる子がいる。保護者との面談を隔け生活リズムが少しでもよくなるようにアドバイスしていった。	3.5	・友達とのかかわりが出てきて、うまく思いが伝わらず嫌な思いをする子もいると思う。先生が子どもと一緒に相手の気持ちを教えてくださりありがたい。	・仲良く遊んでいる時に十分に認めて価値づけし、自分の気持ちに折り合いをつけられるようにする。 ・自分がされて嫌なことは、相手も嫌だということが分かり、相手の気持ちに気づいていけるようにする。 ・家庭での生活リズムの見直しができるよう、生活リズムカードを利用して親子で確認したり、早寝早起きの大切さを知らせたりする。
	2	身近な生き物や草花に親しみをもつ。	園は飼育・栽培体験を継続的にを行い、生長を楽しみに、生き物や栽培物の世話を進んで行っている。	○花や野菜の鉢に自分の名前をつけ、その生長を楽しみにしたり、水をあげたりして世話をすることができた。 ○当番が金魚のエサやりをすることで、順番が回ってくることを楽しみにし、世話をする大切さを学ぶことができた。 ○講師に苗の植え方、育て方を教えてもらいそれを実践することができた。 ●さつま芋畑を見直しても少し広い場所ので収穫を楽しめると良い。生長も悪かったので、土の改良をする。 ●秋にバツヤやココロギ等の飼育をしたかったができなかった。計画的に園外で自然に親しむ機会を作っていく。	3.3	・自然物にいっぱい触れて、遊んでほしい。優しい心を育ててほしい。	・季節の花や生き物に関心をもち、どの季節に何が育ったり咲いたりするかを事前に調べ、保育に活かしていけるようにする。 ・畑の講師に土の作り方や肥料のやり方を教えていただき、野菜や果物を上手に育てていけるようにする。
仲よくする子	3	身近な人に親しみをもって挨拶や話をする。	職員はモデルとなって、笑顔で挨拶や話をし、園児も相手の顔を見て挨拶や返事、話をしている。	○「おはよう」と目を合わせて声をかけたり、しゃがんで同じ目線に合わせてたりすることで、挨拶を気持ちよくすることができた。元気に挨拶をし、モデルとなることができた。進んで朝の挨拶ができる子が多くなったので成果が出ている。 ○クラス以外の子にも積極的に声をかけ、気になることがあると担任に伝えたり職員全体で共通理解をしたりして見守るようにした。 ○人前で話すことが苦手な子には様子を見ながら個々にコミュニケーションがとれるよう配慮していった。 ●当番活動をもっと積極的に行っても良かった。(5歳児)	3.7	・先生達はいつも声をかけてくれ、遠くにも「おはよう」と迎えてくれる。無理にさせるのではなく、上手に挨拶を引き出してくれている。	・引き続き、元気に挨拶が出来るように保育者がお手本となっていく。 ・当番活動は学年の年間計画に入れ、どのような活動をしていくか計画をし子どもたちが意欲をもってできるようにする。
	4	やってみよう様々な活動に取り組み、自信をつける。	職員は、一人一人に寄り添い、認めたり励ましたりして意欲や自信に繋がる関わりをしている。	○小さなことでも認めていくことで、やる気が持続し一生懸命に遊んだり身の回りのことを意欲的に行ったりすることができた。 ○支援を要する子の姿を担当が全体で知らせることで、全職員が支援児の姿を見守り成長した姿を喜び合うことができた。 ○やりたくないことに対して無理にさせようとせず、その子のやる気になるタイミングを見計らってできるやり方を模索することで参加できるように配慮した。チャレンジカードを利用して苦手なことにも意欲的に挑戦する姿を認めたり、友達の頑張りを一緒に励ましたりしていく中でできることが増える姿が見られている。 ●コロナ禍でなかなかできなかったが、異年齢の交流やつながりがもう少しあるとお互いに刺激し合えたと思う。	3.5	・できるようになったことを褒めてもらえて自信になり、友達にも教えてあげようとする姿が見られている。	・来年度は、コロナ感染防止対策も緩和してくると思うので、上の学年の子へのあこがれや、下の学年の子への優しい気持ちが育つように、感染予防を計画していきたい。 ・来年度もチャレンジカードを利用し、苦手なことにもチャレンジする気持ちをもたせ、達成した喜びが味わえるようにする。
元気な子	5	やりたい遊びを見つけ、友達と遊ぶことを楽しむ。	「なかよしタイム」を毎日1時間以上もち、好きな遊びを十分に楽しめるようにしている。	○子どもたちが興味を示すものを探り遊びを設定する中で、楽しく遊ぶ姿が見られた。天候に合わせて、体を十分に動かすことができるようにした。自らやりたい遊びを選び、表現しながら元気に遊ぶ姿が見られた。 ○帰りの会の時に今日の活動を振り返ったり、次の日の活動について話し合ったりすることで、次の日に期待をもち登園できるようにした。ボードや黒板に書いて視覚にも分かるようにした。子どもたちと相談しながら、戸外や室内の遊びに納得してやりたいことができるようにした。 ●なかよしタイムは小間切れになってしまうことがあった。1日の活動から、夢中になって遊ぶ時間はどこに設けることができるのかももう少し考えるべきだった。	3.5	・外で元気に遊んで、健康な体づくりをしてほしい。	・遊びたくなるような環境や遊具の設定、継続して遊べる工夫をしていけるように、時間の確保や場の設定について週案会などで話し合っていく。 ・他の学年の遊びも把握し、かかわって遊べる工夫をしていく。
	6	友達と一緒に十分に体を動かして遊ぶ。	園は遊びを第一に考え、思い切り体を動かして遊べる環境づくりに努めている。園児は、家庭や園で体を動かす遊びを「楽しい」と言っている。	○楽しくて思いっきり体を動かせる環境づくりを子どもと一緒に進めていった。子どもの意見を大切に「やりたい!」「おもしろい」を感じ、自由に活動できる環境づくりを心がけた。 ○寒い日でも戸外で鬼ごっこやドッチボールなど体を思い切り動かす遊びを行い、保育者が積極的に誘い掛け盛り上げた。 ○チャレンジカードを作り、子どもが意欲的に取り組み、のびのびと遊ぶことができた。 ●体を動かしたい思いっきり遊ばせると安全面も大切になってくるので、約束をマニュアル化して共通理解したい。 ●子どもと一緒に体を動かす遊びや、子どもとのかかわり方が分からない方も多いため、具体的に方法を知らせることも必要であると感じた。 ●年々、体幹が育っていないことに驚きがある。体を動かす遊ぶ時間が以前に比べてかなり減ったように思う。	3.7	・楽しい遊びをいろいろ考えていて良いと思う。	・体をいっぱい動かす遊びを取り入れる。 ・子どもとの遊び方が分からない保護者も増えてきているので、具体的に遊びの紹介をして、親子で楽しめる工夫をしていく。
園経営	7	様々な災害を想定した危機管理意識をもつ。	訓練実施後の検証、改善を行う。保健安全教育に関する情報を家庭に発信する。	○命を守る訓練実施後、子どもの安全確保・職員の無駄な動きなどないか振り返り、改善案を出して次に活かすことができた。職員が休みの時もあえて行い、少人数の時の対応も体験した。 ○災害用リュックサックの中を再確認し、アルミシートやリュックの保管場所を見直したりすることができた。 ○コロナ感染が減少しつつあるが、引き続き手洗い、消毒、換気等の感染予防をしていきたい。 ○交通安全教室や防犯教室(たんぼぼ班)などの様子を伝え、家庭とも共有できるようにした。 ○ほげんだよりを通して、夏休みや冬休み前に約束を知らせたり、生活リズムカードを活用して早寝早起きの大切さを家庭に知らせたりした。 ●非常持ち出しの再検討ができていないので、やっていきたい。	3.5	・命の大切さを知らせ、自分の命は、自分で守ることができるようになると良い。 ・コロナ感染予防は引き続き行い、安全に過ごしてほしい。	・非常持ち出し袋の確認や安全対策、引き渡し訓練などを行い、安全に過ごせるようにする。
	8	家庭との連携を図り園児の育ちを確かめ合う。幼児教育において大切なことを家庭や地域に発信する。	職員は、話し易い雰囲気の中で園児に温かく接している。園の活動がわかりやすく知らされている。	○学年だよりに活動の写真を多く掲載し、それをホームページで見ることができるようにして、離れて住んでいる祖父母にも見ていただけるようにした。 ○保護者に降園時に園での様子を話そうにし、何でも話しやすい関係づくりをした。 ○作品展では、取り組みが分かるようにドキュメンテーション(写真で紹介)を掲示し、それまでの過程などが分かるようにした。 ●ドキュメンテーションが昨年より少ないという意見もあるため、保護者はもう少し園の様子を知りたい。コロナも少し落ち着いてきたので参観が1回でも増えれば満足していただけるのではないかと。 ●子どもが安心して過ごせるような保育者のかかわり、環境設定について考える話し合いの場(園内研や週案会)を充実させていきたい。 ●降園時、伝えたいことが多く話が長くて、他の保護者を待たせてしまうことがある。工夫していきたい。	3.4	・園での様子を知りたい保護者が多いので、工夫をしていけると良い。	・作成したドキュメンテーションの掲示の仕方を工夫していく。 ・子どもが安心して過ごせる環境設定を園内研や週案会に入れ、充実させていく。 ・降園時の保護者への伝達の方法を工夫し、遅くならないように工夫していく。